

令和7年度 門川町立門川中学校 学校評価書

評価（数値）は4点満点

学校の教育目標	ふるさと門川を愛し、夢を抱き、主体的に行動する生徒を地域とともに育成する。				
めざす生徒像	①探究心とチャレンジ精神をもつ生徒（知） ②自らを律し、仲間を思いやる生徒（徳） ③心身ともに健康でたくましい生徒（体）	めざす教師像	①生徒の変化に気づき、すぐに行動できる教師 ②生徒の可能性を見出し、磨き上げることが できる教師 ③新たな課題に挑戦し続ける教師	めざす学校像	①生徒が自ら考え、行動する学校 ②教師が生き生きとした学校 ③生徒・保護者・地域がともにつくる学校
学校経営 ビジョン	子どもたち一人一人に夢をもたせ、その実現に向けた力を育むことのできる学校づくり				
I 学校経営	学校の教育目標・方針は、地域や生徒の実態を的確に捉え、保護者のニーズを反映したものになっているか。				
評価項目	取組状況	達成状況	学校運営協議会委員意見	今後の方策	
学校管理運営	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の教育目標や方針について、保護者が集まる場や、通信、学校ホームページ、面談等を通して、保護者等に周知した。 ・本校の現状と課題について、共通理解を図り、目標設定を行うことで、全職員で課題解決に向けて取り組んだ。 ・学校ホームページや通信で、生徒の活動の様子などを積極的に配信し、頑張っている姿を保護者や地域に広めた。 	<p>◎保護者への調査結果 【学校の教育方針を理解している。】 令和7年度 2.7（R6：2.9） 【学校は家庭への連絡や情報提供を積極的に 行っている。】 令和7年度 2.8（R6：2.9）</p>	<p>令和7年度 3.0</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者に対する適宜の情報発信はできている。 ・教育目標や方針の周知により一定の理解は得られているが、目指す生徒像と実態に乖離があり、今後は実態を踏まえた指導の工夫が必要である。 ・ボランティア等の地域活動を通して目標達成に向けた取り組みができてはいるが、頑張る生徒がより認められる場の創出と、地域に愛される学校づくりを望む。 ・教育目標の理解度が下がっているため、PTAを通じた家庭との意思疎通を強化する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の課題について、どのように対応しているか、保護者や地域に分かるよう、更に周知を図る。 ・学校ホームページや通信で、生徒の活動等について、情報発信を継続する。 	

2 学力向上	生徒は学力を向上させるために、主体的に授業に参加しているか。また、教師は生徒が意欲をもって取り組む授業を実践しているか。			
評価項目	取組状況	達成状況	学校運営協議会委員意見	今後の方策
学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査の結果分析を行い、各教科における課題の把握や職員間の共通理解を図った。 ・基礎基本の定着や学習習慣の確立を目標に、学力クラスマッチや計算力コンテストに取り組んだ。生徒の意識の高揚を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査や各種テスト等の結果は、県平均を下回った。 ◎保護者への調査結果 【子どもの学力は向上している。】 令和7年度 2.4 (R6:2.6) ◎教員の自己評価の結果 【子どもの学力は向上している。】 令和7年度 2.3 (R6:2.1) 	<p>令和7年度 2.4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力が県平均以下であるため、基礎・基本の徹底と個別の学習支援による意欲向上が求められる。 ・真面目に取り組む生徒が多い一方で、授業妨害や離席が目立つ生徒への別室指導などの対応を検討すべきである。 ・学力が低下し保護者の評価も低い一方で、教員側は向上したと判断しており、学校の努力が保護者に十分に伝わっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の定着や学習規律に関わる指導の充実を図る。 ・参観日や行事を活用し、授業の様子や指導の現状を、保護者が把握できる機会を増やす。
授業力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・主題研究を通して、「ひなたの学び」の「ひ」の部分に特化し、導入段階で生徒を惹きつける問いを設定することで、生徒が主体的に授業に取り組むことができるよう、授業改善に努めた。 ・全国学力・学習状況調査の結果分析を行い、教科の指導方針等の参考とした。 ・学習意欲等に係るアンケートを、生徒及び教職員を対象に実施し、研究効果について検証した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒アンケートの『各授業の「めあて」は、学習に意欲的に取り組みたいと思う「めあて」の設定になっていますか』、『「どうして?」「なぜ?」と問いをもちながら学習に取り組むことができていますか』の質問に約85%の生徒が肯定的に回答した。 教職員は、『各授業の「めあて」は、学習に意欲的に取り組みたいと思う「めあて」の設定になっていますか』の質問に70%、『「どうして?」「なぜ?」と生徒が問いをもてる学習課題になっていますか』に53%が、肯定的に回答した。 ◎保護者への調査結果 【授業が分かりやすいと子どもから聞いている】 令和7年度 2.4 (R6:2.5) ◎教員の自己評価の結果 【生徒が分かりやすい授業づくりに努めている。】 令和7年度 3.3 (R6:3.1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業力向上のために様々な創意工夫がなされている。 ・安定した生徒と課題を抱える生徒が混在し指導が難しい状況にあり、生徒の集中力や「聞く・考える・書く・話す」力の育成が求められている。 ・一部の生徒による授業妨害が課題だが、過酷な環境でも主体的に学ぶ生徒もおり、課題のある家庭への意識付けが重要な課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主題研究を中心として、学力調査やアンケートの結果を分析し、更に授業改善に取り組み、深い学びとなるような授業を展開する。 ・効果的に一人一台端末を活用できるよう、学習指導と生徒指導の充実を図る。

3生徒指導	生徒はきまりや時間を守り、あいさつをきちんと行う等の生活態度がしっかりしており、安心・安全に学校生活を送ることができているか。			
評価項目	取組状況	達成状況	学校運営協議会委員意見	今後の方策
生徒指導の 充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導委員会を毎週実施し、共通理解を図るとともに、対応の検討を行った。 ・生徒会活動の活性化を図るために、校内放送を活用して、称賛する場を作った。 	<p>◎保護者への調査結果 【学校は生徒指導に力を入れ、その成果が上がっている。】 令和7年度 2.0 (R6:2.3)</p> <p>◎教員の自己評価の結果 【学校は、どの先生も同じ方針で生徒指導ができています。】 令和7年度 2.1 (R6:2.4)</p>	<p>令和7年度 2.0</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事等での私語や騒がしさが目立ち、メリハリのない雰囲気があるため、教員間での共通理解と連携を深める必要がある。 ・一部の生徒による決まりや時間の軽視、清掃の不徹底が見られ、それらが原因で転校を検討する保護者が出るなど、深刻な影響が出ている。 ・保護者からの厳しい指摘を真摯に受け止め、学校の実情や指導方針について、保護者との意見交換や認識の共有を早急に行うべきである。 ・学校だけの指導には限界があるため、保護者の協力が不可欠である。 ・ハラスメントへの過剰な反応や生徒からの暴言により、熱心な先生ほど萎縮し指導が困難になっている現状を地域・保護者が理解し、先生が安心して毅然と指導できる環境を整える必要がある。 ・自発的な挨拶には課題が見られるものの、周りからの働きかけに対しては非常に良好な反応を示す生徒が多い。積極的な声掛けが、生徒の豊かな人間性を引き出す有効なアプローチとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・微細な変化に気づき、先を読み、全職員で協力して、組織的な対応の充実を図る。 ・保護者や関係機関との連携を更に充実させる。
基本的な 生活習慣 の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動や清掃指導集会を通して、清掃活動の充実を図った。 ・時と場に応じた行動ができるよう、指導を行った。 	<p>◎保護者への調査結果 【学校は清掃が行き届き、校内がよく整備されている。】 令和7年度 2.2 (R6:2.6)</p> <p>◎教員の自己評価の結果 【校内の環境美化に積極的に取り組んでいる】 令和7年度 2.8 (R6:2.8)</p>	<p>令和7年度 2.8 (R6:2.8)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・集会指導の徹底を図るために、まずは学級や学年など、小さな集団からの指導を繰り返していく。 ・清掃活動については、令和7年度の試行を生かし、新たな清掃活動について模索していく。

4 心の教育	誰にでも思いやりをもち、人権感覚を高めるための指導や、いじめや差別は何かあっても絶対に許さないという、心の教育に力を入れているか。			
評価項目	取組状況	達成状況	学校運営協議会委員意見	今後の方策
望ましい人間関係などの心の教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、学校生活アンケート(毎月)や教育相談(每学期)を計画的に実施した。 ・人権教育の時間を設定し、一人一人の人権感覚を高める取組を実施した。 ・道徳や学級活動、個別指導を通して、いじめや差別は絶対に許されない行為であることを指導した。SNSの利用に関しても、県の資料を活用し、啓発を行った。 	<p>◎保護者への調査結果 【学校は人権教育や心の教育の推進に力を入れている。】 令和7年度 2.4 (R6:2.8)</p> <p>◎教員の自己評価 【学校行事は生徒にとって楽しく充実している。】 令和7年度 2.8 (R6:2.9)</p>	<p>令和7年度 3.3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校のカリキュラムや先生方の姿勢を通じて心の教育が行われており、今後も思いやりのある心を育む指導が継続されることを期待する。 ・アンケートや教育相談、個別指導は徹底されているが、全国ではSNSでの暴力動画拡散といった問題も発生しているため、正しい利用方法の指導を継続する必要がある。 ・精神的に不安定で傷つきやすい生徒もおり、継続した指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的なアンケートと教育相談、生徒観察において、いじめの早期発見に努める。また、いじめ不登校対策委員会において、共通理解を図り、いじめの解消へ向けた取組を行う。 ・情報モラル関わる啓発や指導の充実を図る。
5 地域社会との連携	学校行事等を通して、地域社会や家庭等と連携を図りながら、地域の方々や保護者から信頼されるよう、開かれた学校として機能しているか。また、地域の人材を学校行事や教科指導等において積極的に活用しているか。			
評価項目	取組状況	達成状況	学校運営協議会委員意見	今後の方策
地域社会との連携を図るなど、開かれた学校としての機能の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・通信や学校ホームページ、安心メール、面談、参観日、校内の掲示物等を通して、学校の教育目標や方針、教育活動等の紹介を保護者や地域に広報した。 ・ボランティアクラブ「ハピネス」やSPSサポーターの生徒が、地域の活動に積極的に参加した。また、生徒会を中心とする代表の生徒が、意見を述べる場に参加することができた。 ・1学年の数学科の授業や総合的な学習の時間に、地域の方の支援を受け、学習を充実を図った。 ・自由参観週間を設け、保護者や関係機関、地域の方々に、生徒の様子を見ていただいた。 	<p>◎保護者への調査結果 【学校は地域の活動に積極的に参加し、地域との連携を密に図ろうとしている。】 令和7年度 2.8 (R6:2.9)</p> <p>【保護者として、PTA活動の運営や活動に積極的に協力している。】 令和7年度 2.7 (R6:2.7)</p> <p>【学校行事(体育大会など)は充実している。】 令和7年度 2.8 (R6:3.0)</p> <p>◎教員の自己評価 【生徒や保護者からの相談に積極的に応じている。】 令和7年度 3.4 (R6:3.5)</p>	<p>令和7年度 3.6</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ハピネス」の活躍や、新たに10名の「防災士」が誕生したことは、全国的にも類を見ない素晴らしい成果である。 ・地元の魅力をテーマに主体的に取り組む生徒の姿が、地域関係者に強い印象を与えている。 ・企業やボランティア団体との合同清掃や重機操作体験などを通じ、地域に開かれた学校として生徒が社会参画する双方のメリットがある取り組みができています。 ・今後も引き続き、地域社会および家庭との緊密な連携を継続してほしい。 ・家庭や学校以外の大人と接する機会を増やすとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材を活用した学習活動の機会を設け、社会性や心の教育の充実を図る。 ・ボランティア活動やSPS活動など、頑張っている生徒がより認められる場を設定する。

6 働き方改革	教職員は、ICT等を活用し業務改善に取り組み、健康保持や働き方改革に力を入れているか。			
評価項目	取組状況	達成状況	学校運営協議会委員意見	今後の方策
校務のデジタル化と時間外勤務の縮減	<p>・校務支援システムや共有ドライブ等を活用して、情報共有を図った。</p> <p>・教職員の勤務開始時間が早くなりすぎないように、生徒の登校時間を午前8時以降とした。また、下校後は、職員で協力して、校舎内の施錠を行った。</p>	<p>・教職員の時間外勤務について、月により多い状況があった。特に10月は、時間外勤務（平均58時間）が多かった。</p> <p>全体的には、4月平均は約50時間（45時間以上48%、80時間以上16%）であったが、11月平均は約45時間（45時間以上45%、80時間以上7.8%）に、縮減することができた。</p> <p>◎保護者への調査結果 【保護者として、先生方が時間外の勤務とならないように協力している。】 令和7年度 3.4（R6：調査無し） 【学校はICTを活用して、円滑に学校運営を行っている。】 令和7年度 2.7（R6：調査無し）</p> <p>◎教員の自己評価 【勤務時間内で効率的に仕事を進める工夫ができています。】 令和7年度 2.4（R6：調査無し） 【校務支援や共有ドライブ等を活用し、業務の効率化や情報共有ができています。】 令和7年度 2.9（R6：調査無し）</p>	<p>令和7年度 3.4</p> <p>・教職員の負担軽減のため、ICTやAIを最大限に活用し、効率的な資料作成や最適解の検討を行う時期に来ている。</p> <p>・ICT活用が逆に教職員の負担にならないよう、真の業務効率化と働き方改革の実現を願う。</p> <p>・時間外勤務の要因となる部活動について、保護者の協力を得ることで、教員が不在でも活動できる仕組みづくりができるのではないか。</p>	<p>・資料作成や事務作業において、ICTやAIを積極的に活用し、業務の最適化を図る。</p> <p>・部活動について、保護者や町教育委員会と連携し、持続可能なものとする。具体的には、部活動の精選や地域展開へ向けた検討を行う。</p> <p>・保護者や地域に、学校の働き方改革への理解を求める。</p>